

「聖霊の賜物を受ける」

詩篇 第51篇10節～15節
使徒行伝 第2章37節～42節

説教 岡村 恒牧師

『悔い改めなさい。バプテスマを受けなさい。そうすれば聖霊の賜物を受ける。』この日のペテロの説教に続く洗礼の勧めの言葉は、極めて単純で明確です。この勧めを引き出した問いがあります。「兄弟たちよ、わたしたちは、どうしたらよいのでしょうか。」(使徒行伝 2章37節) 神の救いの約束を聞いた者が心を刺されて発した質問です。ペテロはこの説教の終わりに言い切りました。あなた方が十字架につけたイエスを神が救い主としてお立てになった、と。

あのお方こそ私たちの救い主だ。そう聞かされ、そのお方を自分たちが十字架につけて殺して、あざけて墓に葬らせた。「兄弟たちよ、わたしたちは、どうしたらよいのでしょうか。」そう問う以外、もう神に謝罪する言葉も出てこないのです。あなたの為に主は血を流された、あなたの為に主が肉を裂かれた。私たちは聖餐の礼典、主の食卓で繰り返し聞いています。罪の払うべき報酬を、神のひとり子がすべて背負い、私たちに代わって引き受けるために、あのお方は十字架で死なれた。

私たちは今日ここで問うのです。「兄弟たちよ、わたしたちは、どうしたらよいのでしょうか。」多くの事は求められていません。一つの事だけです。「悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりびとりが罪のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によって、バプテスマを受けなさい。」(38節) 悔い改めと言うのは、元の言葉では、方向転換を意味します。私たちはいつでも神なき道を歩もうとします。ですから聖書は、その向きを変えたらよいと招きます。バプテスマと言う言葉は、水に浸すと言う言葉からきています。あなたの罪も、自分ではどう洗っても落ちない。イエス・キリストの血に浸す様にして、洗って落としてもらいなさい。

今日2人の姉妹が洗礼をうけます。あの日、弟子たちに聖霊が下った様に、洗礼を受けた時、新しい命を得、聖霊を注がれると聖書は約束しています。目に見た姿は、何一つ変わらないかもしれませんが。しかし神の目には永遠の命を受けた、神の者である刻印を押された者として映ります。神の元で、命の書にはっきりと名が記され、終わりの日に完成する神の国の食卓に、座るべき場所が与えられる。神の元で眠り、目覚めるための準備が今日、整います。

ペンテコステの日、弟子たちに聖霊が激しく

注ぎ入れられました。この日、彼らの勧めを聞いて仲間に加わったものが3,000人いたと聞いても驚く必要はありません、主イエスは、一度に5,000人を満腹にすることができました。第二次世界大戦末期の1944年、この聖堂でいかに31人が洗礼を受けている写真があります。神の子として生きる以外に、あの時代を本当の意味で生きることなどできない。そう確信をして洗礼を受けた者が大勢与えられました。

この大阪教会の始まりは5人の者が洗礼を受け、東京公会から1人、横浜公会から1人が転会をして7人で始めました。それから138年、多くの信仰者が大阪教会の歴史の中で悔い改めてバプテスマを受け、聖霊の賜物を受けて生きてきたのです。「兄弟たちよ、わたしたちは、どうしたらよいのでしょうか」その問いが繰返しこの場所でも響いてきたのです。90年になるこの建物の中で、どれほどの人が、この問いを自分の問いとして問うたのでしょうか。そしてペテロの言葉を聞き続けてきたのでしょうか。

今日は転入会式も執り行います。3人ととも、大韓キリスト教長老会の教会で洗礼を受け、歩んでこられた兄弟姉妹であります。そしてこの大韓キリスト教長老会と日本基督教団は宣教協約を結んでいます。それ故、転入会式で特別なことは一切なされません。既に神の子とされた3人が、地上での居場所を移すだけであります。しかし私たちの教会にとっては、家族が増える大きな喜びの出来事です。

あのペンテコステの日、3,000人を神の民に加えて下さったお方が、138年にわたってこの大阪教会を用いて、多くの民を神の国に結び付け、その働きを1度も休まず、今日も激しく働いておられることを私たちは確認するのです。

洗礼を受けた者は1人残らず、確かに聖霊を受けたのです。聖霊の声を耳を傾け、聖霊の働きに身をゆだねればよいのです。そうすれば、神の賜物や、神の働きが、どれだけ力強いものか味わうようになります。今日洗礼を受けた2人の姉妹と、この教会で共に信仰の旅を歩み始める3人の兄弟姉妹に注がれる祝福が、ここに居る全ての者に等しく注がれていることを感謝をしたいと思います。

(記 説教要約奉仕者)